

仕事納め式 市長訓示

職員の皆さん こんにちは 月日が過ぎるのは早いもので、今年も一年が終わろうとしています。残すところ わずかとなりました。

「一年間お疲れ様でした。」 この一年どんな年でしたか。

今年一年を振り返ってみますと、梅雨入りが例年より早く、線状降水帯による大雨や洪水などを警戒し、雨雲レーダーを見ながら対応したことや、その後には世界的な猛暑になったことを思い出します。

また、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、次の時代へと動き始めたことを強く感じた年でありました。

特に、コロナ禍で私たちが学んだ多くのことを活かしながら、保育所、幼稚園、小・中学校も感染防止対策を行い、次第に少しずつコロナ禍前の生活が戻ってきたように思います。

ところで、今年の仕事始め式では、地方創生の3つの拠点など見える形で成長させてくれましたことを話し、その見える形をつなげる「繋」と表しました。今年も、職員の皆さんの活力、活躍を感じた一年でしたので、漢字一字で表すと「活」だと思います。

各部署においても、それぞれの職責を果たしてもらえ、今年もよかったことが、たくさんあった一年になったと思います。

まずは、市制施行20年の年として、この20年の機に、これまでの瑞穂市の歩みを振り返るとともに、先人の皆様から受け継がれてきた美しい自然や、伝統・文化を大切に継承しながら、未来に向かって進めていけるよう「人権の尊重」「環境の改善」「平和の維持」の3つを、次代を担う世代に繋いでいきたいと考えました。それを各小・中学校で「昼休み まちづくりミーティング」を行い、子どもたちに説明し、多くの意見や提案をもらうことができました。

3月には、「瑞穂市人権尊重都市宣言」を行うことができました。今月23日には、岐阜県の偉人である「杉原千畝物語」今年最後の20周年記念事業を開催したところ、多くの職員が来てくれて、盛大に開催することができました。

「平和」については、平成22年に「非核・平和都市宣言」を行っていますが、さらに3月に「平和の鐘」を設置しました。残る「環境」については、今年度中には「瑞穂市環境都市宣言」を行うことを考えています。

20周年記念事業は、5月には、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となり、6月に市制施行20周年の記念式典が行えたことは、幸先よいスタートになりました。毎週のようにアニバーサリーコンサートや、講演会などのイベントが多く実施され、瑞穂市出身のジャズシンガー、大友玲子さんの平和祈りコンサート、こちらも瑞穂市出身の画家、大平由香利さんの平和の絵画も完成し華を添えていただく形となりました。「瑞穂市清流長良川100キロ ウオーク」も昨年に引き続き規模を拡大して開催し、遠方からの参加者もあり大成功となりました。

また、ほづみ夜市やイルミネーション点灯、さい川さくら公園のかわまちづくりの社会実験、サンコーパレットパークの社会実験など、たくさん行うことができました。

市長就任時から進めてきた 地方創生の3つの拠点づくりについては、

昨年にオープンした「サンコーパレットパーク」は、官民がそれぞれの手法を用いて企画した、子どもたちを中心としたイベントが多く開催され、市内・市外からも来ていただける拠点を定着しました。

さらに、このサンコーパレットパークを中心として、中山道沿いの美江寺宿・小簾紅園・呂久の渡しを結ぶ市の北西部に、にぎわいを創出する「中山道まちづくり基本構想」に基づいた社会実験や、閑散期におけるイベントなどを行ったところ、多くの人が集い確かな手ごたえを感じとることができました。

私が考える公園管理は、P a r k - P F I 公募設置管理制度になりますが、そもそも公園整備の予算計上される際に、民間の創意工夫を取り入れることとして、具体的にはカフェなどの飲食店や特産品の販売所、さらには一時保育などの提案などを公園の設計段階から取り入れることが必要であったと思います。民間ならではの創意工夫と民間資金を活用した公園整備と管理制度とすることで、財政負担を軽減することがよいと考えます。

次にJR穂積駅周辺整備では、「エキサイトサードプレイス」とし、若い世代を中心に人が集まり交流できる「家庭でもない・職場でもない、とびきり居心地の良い場所」として、8月3日にオープンさせることができました。

市の玄関口である駅周辺の魅力向上のため、区画整理事業として穂積駅南エリアから整備を進めていかなければなりません。

別府交差点改良や郵便局に向かう道路改良も確実に事業が進み、「ゾーン30プラス」の導入に向けて動き始めることになりました。

また、駅北エリアの駅前広場も一般乗降場所、タクシー乗降場所などの配置

の見直しを進め、交通環境と生活の利便性向上にも道筋がついたと思います。

3つ目に犀川遊水地整備事業では、隣接する牛牧排水機場、牛牧樋門整備、公共下水道アクアパークみずほの整備を含めた一帯の「犀川遊水地グリーンインフラ基本構想」を実現するため、「犀川・五六川周辺かわまちづくり計画」に基づき、社会実験を夏・秋に実施したところ、良好な水辺空間の活用の全体像が見えてきましたので、引き続き計画的に進めていきます。

併設する牛牧排水機場の整備の完了時期も令和7年度中完成予定と見通しが立ち、そして「アクアパークみずほ」も、令和9年度供用開始に向けて確実に進んでいます。

老朽化している牛牧第1保育所を、公私連携型保育事業として「社会福祉法人 真人舎」と連携協定を締結することができました。

子どもたちに関しては、今年4月に子ども家庭庁が設けられ、瑞穂市では先行する形で、子ども支援課を令和3年4月に新設しておりましたので、家庭への支援、子育て支援を率先して行ってきました。子ども家庭庁は、子どもたちが健やか幸せに成長できる社会「こどもまんなか社会」の構築を目指し、この趣旨に賛同した個人、団体、企業に「こどもまんなか応援サポーター」として幅広い活動をしていただくものですが、瑞穂市でも「こどもまんなか社会」の構築を進めていきたいと思っています。

子育て支援は、「児童手当」をはじめ、医療費の助成など子育て家庭への支援があります。こども真ん中社会の構築には、「子どもたちが健やか成長できること」「子どもの持つ力を引き出し、その力を発揮させる」、すなわち「持つ力を育む支援」に最大限の力を発揮することであると考えます。それを実現するための保護者や個人、団体、企業などで「子どもサポート」が必要になります。ひとり一人の子どもの力を最大限に引き出し、生き生きとした子どもの育ちを育むものになります。

その取り組みが、人口減少対策となり、子どもを産みたいと思うこと、子どもを産もうとする心理面などの働きかけとなり「子育ての喜びを感じること」「子育ては楽しいと思うこと」「子育ては仕事、キャリアにプラスになる」という社会を創り上げることが、私は「こども真ん中社会」の最終目的だと考えています。

物価の高騰は、市民生活に大きな影響を与えましたが、子どもたちの給食費は、物価の高騰により保護者から負担を求めるのではなく、給食の質を落とすことのないようにと給食センターも懸命に務めてくれていました。

物価の高騰による緊急対策としては、今年も低所得世帯に一律3万円の給付を、行ってもらっていますし、来年早々には、非課税世帯に7万円の給付、さらに65歳以上の高齢者に8千円のギフトカードを送ることもやっていただかないとなりません。

小・中学校では、児童・生徒には、一人一台のタブレット型パソコンの活用が高まりました。10月、11月には、小・中学校の公表会、研究発表会へ時間がある限り参加し、子どもたちが落ち着いて、しっかり学習に取り組む姿勢、意欲的な姿、タブレットを活用し、しっかり自分の考えを発表する姿、自分の考えをまとめて、長く話すことができることを参観できて、非常によかったと思います。

保育所では、各保育所の特色を鮮明してくれました。不適切な保育についても所長会を通じて考えてくれました。公開保育では、子どもたちの様子がわかる保育を、担任保育士と補助の保育士が連携し一体となり、子どもたちが発言する姿、集中する姿を見せてもらえました。

私もクリスマス会にサンタとして参加しましたが、子どもたちの集中力、笑顔で話しかけてくれ、子どもたちが健やかに成長している姿を見ることができました。保育士さんの大変な仕事も身をもって理解できました。

多くの事業を進めていくには、市の基盤整備をするためには、財政力をつけることが重要であり、今年も市税の高い収納率、特に滞納繰越分など収納対策をしてくれましたし、国保税率の改訂も計画的に進めてくれました。

また、中日ドラゴンズとのコラボグッズや樽見鉄道クラウドファンディングなどふるさと納税、ネーミングライツにも力を注いでくれました。

積立基金をはじめとする下水道事業対策基金、庁舎建設基金など、施設整備基金の積立にも努めてきました。基金積立を行いながら事業を進めることは、厳しいなかではありましたが、多くの事業ができたと思います。

すべての部課の実績を紹介したいのですが、時間の限りもありますので、このあたりとしますが、

私の瑞穂市のビジョンである、「誰もが健康で生きがいを持ち、幸せに暮らせる「健幸都市みずほ」の実現に大きく進んだ一年となりました。職員の皆さんの「活力、生き生きとした活躍」を肌で感じた一年でもありました。

今年一年間、勤めてこられたのは、私は家庭があるからだと思います。年末年始は、家族と過ごす時間が長くあり、普段、会えない子どもが帰ってきたり、別

に住んでいる両親と会えたりできる機会だと思います。

「仕事は家庭から」と言われるとおり年末年始、家族と向き合う時間をたくさん設けてもらい、2024年に向けて英気を養ってもらいたいと思います。

職員の皆さんには、たくさん仕事で助けてもらいました。体調管理に十分気を付け、よい新年を迎えられるようご祈念を申し上げ、

2023年の瑞穂市の仕事納めのあいさつとさせていただきます。

「1年間ありがとうございました。」